

好事例・先進事例(その他)

【No.】

まちづくり協議会×市民公益活動団体
×中間支援組織

志津楽座プロジェクト「志津みつけ！」

志津まちづくり協議会×まちづくりスポット大津

【ここがポイント】

子どもと大人が楽しみ、横のつながりができることで、他のプロジェクトへの参画やまちづくりセンターへ来所するきっかけになることが期待できます。

【概要】

人と事業の硬直化を打破するため「プロジェクト制」を導入した志津まちづくり協議会から、(公財)草津市コミュニティ事業団が依頼を受け、ワークショップを得意とする中間支援組織「まちづくりスポット大津」を紹介。まちづくりスポット大津のコーディネートにより、地域の若手を中心に多様なプロジェクトを生み出すためのワークショップ「志津を楽しむ100のプロジェクト」が実施され、多くのプロジェクトが誕生しました。その一つが「志津みつけ！」プロジェクトです。

これは、新住民親子が地元を知ることができるRPG型のお散歩ゲームであり、地元農家、消防署、交番、郵便局、市役所、神社、寺など様々な地元の資源や主体が参加しています。このプロジェクトにより、新たな地域の交流や世代間の交流が実現しています。

【ストーリー】

「志津を楽しむ100のプロジェクト」を通し、地域の史跡・歴史や言われ、昔話などを知りたいという想いを若者たちが持っているということがわかりました。そこで、まち歩きを通じて、地域住民と出会いながら地域の魅力や歴史を知る、お散歩ゲームが誕生しました。

約40名の参加者はグループに分かれて指定のコースを歩きます。コースにはチェックポイントがあり、消防団詰め所や郵便局、お寺や神社などでは、各グループにミッションが出題されます。このゲームのポイントは、ミッションを達成するためにはチェックポイントにいる地域住民との会話が必要となることです。会話を通し、ヒントをもらったり、手伝ってもらったりことができ、自然と仲良くなったり地域を知ってもらおう仕掛けが用意されていました。

また、連絡やミッション報告はLINEで行われるため、準備や管理にかかる手間も最小限に留められています。遊び心と地域のまちづくりが一体となったイベントとなり、参加者も大いに楽しんでおられました。

【対応課題】

個別課題：(2)まちづくり協議会

横断的課題：②場所・機会の不足、④組織・活動の負担感

【No.】

市民×市民活動団体
× 中間支援組織

コミュニティスペース「こもれび広場」誕生

まちのコミュニティハブツナグ×イオンモール草津

【ここがポイント】

子育て中のママたちが有償のイベント講師を務めることで、交流の場づくりと同時に地域人材の活躍やネットワーク形成も同時に行っています。

【概要】

「イオンモール草津」のリニューアルに合わせ、親子の交流を支援するコミュニティスペース「こもれび広場」がモール内に設置されました。令和6年春のオープンに向け、(公財)草津市コミュニティ事業団がコーディネートを行い、市内で子育て世代のコミュニティづくりをサポートする市民活動団体「まちのコミュニティハブツナグ」が広場のプロデュースを担当しました。広場の運営は同団体から派生する形で起業した合同会社コミニタスが担い、パパママ目線でのスペース運営が実現されました。

【ストーリー】

イオンモール草津から事業団へ相談があったのは、令和4年12月でした。地域の親子の交流を支援するコミュニティ広場を設置し、転入者の多い草津の子育て交流拠点として地域貢献すべく、広場のコーディネートができる団体を紹介してほしい、といった内容でした。

そこで、事業団の助成事業“ひとまちキラリ助成”を活用して草津市で地域と親子をつなぐプラットフォームとなり、パパママのコミュニティ形成を応援する市民公益活動団体「まちのコミュニティハブツナグ」をコーディネートしました。

協働にあたっては、ママたちが得意なことを仕事にして活躍できるようにするため、団体からの派生として「合同会社コミニタス」を起業し、市民活動からのステップアップも果たしました。

現在「こもれび広場」では、ウェルカムパーティーや親子向けの体験企画だけでなく、“助産師”や“保健師”など専門機関でしか相談ができない専門士とも気軽に出会えて、フラットに話せるイベントを開催しています。そのため、こもれび広場では仲間をつくる横のつながりと、悩みが相談できる子育て支援がイベントを通じて行えます。イオンモール草津の拠点機能と親子のコミュニティ形成を得意とする市民活動団体の強みが見事にマッチングした事例となり、草津の新しいまちづくりのカタチとしても大きなヒントとなりました。

【対応課題】

個別課題：(4)市民公益活動団体

横断的課題：①各主体の情報の共有の不足、②場所・機会の不足、③担い手の不足、
④組織・活動の負担感、⑤組織・活動を取り巻く状況の変化

【No.】

市民×市民×まちづくり協議会
×市民公益活動団体×教育機関
×中間支援組織×市

アドベントカレンダープロジェクト

学生団体滋賀ログ×草津市コミュニティ事業団×草津商工会議所
×立命館大学まちのジブンゴトfeel→do！

【ここがポイント】

サポートを行った周囲の大人たちは、滋賀ログ(学生)が主体的に行動し“自由な学び・経験”となるように活動に対しては必要以上に干渉せず見守る支援を徹底しました。

【概要】

「滋賀は琵琶湖だけじゃない」をスローガンに、滋賀の特産物や資源をSNSで紹介する学生団体「滋賀ログ」が、“滋賀の宝物を詰め込んだ”アドベントカレンダー“の製作と販売にチャレンジしました。立命館大学、まちのジブンゴトfeel→do！運営サポートチーム、市民活動団体、事業団、草津商工会、地元企業、まちづくり協議会、草津市など多様な主体および周囲の大人たちが多角的にサポート。クラウドファンディングによる共感と資金の調達を経て実現に至りました。

【ストーリー】

アドベントカレンダーの製作に向けた相談を受けた事業団は、まずはアドベントカレンダーを知ることからサポートをスタートしました。デザインや素材はもとより、どこで製造ができるのか、オーダーメイドができるのか、必要な予算はどのくらいか、などわからないことだらけでした。そこで、キラリエ草津内部の中間支援機能を生かし、草津商工会議所と連携し、計画のアドバイスや注意点を教えてもらうと同時に、市内の事業所などを紹介してもらいました。

他にも、アドベントカレンダープロジェクトの支援者獲得とネットワークづくりを目的として、学生・市民・団体・企業など、豊富な人材が参加する「立命館大学まちのジブンゴトfeel→do！」を紹介したことにより、新たなプロジェクトメンバーの加入や奨励金制度の活用へつながることができ、プロジェクトを進める一歩となりました。

このアドベントカレンダープロジェクトの主な予算は、クラウドファンディングの寄付金を充当するため、11月からクラウドファンディングを開始しました。学生の素敵なチャレンジと滋賀の魅力を知ってほしい、という想いに約140万円の寄付が集まり、プロジェクトを見事達成しました。

【対応課題】

個別課題：(4)市民公益活動団体、(5)教育機関

横断的課題：①各主体の情報の共有の不足、②場所・機会の不足

【No.】

市民×市民×教育機関
×中間支援組織×市

つながりサポート(チューリップ)事業

ハローワーク×障害者福祉センター×草津学区社協活動拠点「ゆかい家」×志津南学区社協活動拠点「ふれあいハウス絆」×隣保館×地域まちづくりセンター×草津市社会福祉協議会×草津市

【ここがポイント】

事業開始以降、多種多様な団体・企業との協働により市内で19もの拠点が運営されており、善意の循環を生かしながら地域への理解・支援の輪を広げています。

【概要】

貧困・孤立・孤独により不安を抱える女性が、社会の絆・つながりを回復することを目的とする事業であり、地域住民・各種団体・機関・企業が協働し、生理用品や食料品等の提供を通じて、各種サービスや地域との関わり方の創出などの支援を行っています。

【ストーリー】

この事業は、令和3年度より草津市男女共同参画センターが草津市社会福祉協議会に委託しているもので、地域住民・各種団体・機関・企業が協働し、生理用品や食料品等および各種相談機関のチラシを提供することで、支援を必要とする人たちが、「助けて」と声をあげるきっかけづくりを進めています。

生理用品や食料品等は、ボランティアグループによって袋詰めされ、市社協の他、市役所や図書館等の公共施設、ハローワークや障害者福祉センターなどの相談機関、草津学区社協活動拠点「ゆかい家」や志津南学区社協活動拠点「ふれあいハウス絆」、隣保館や地域まちづくりセンター等の地域拠点を中心に、19の提供窓口で配布しています。

また、小中学校では、生理用品を詰めた箱を保健室や、個室トイレ等に設置して、児童生徒が必要に応じて使用できるようにするとともに、各種相談窓口の案内チラシを教員にも周知し、必要とする児童生徒へ情報提供いただけるようにしています。

物品の提供の他にも、年に2回、草津市役所やキラリエ草津内の相談機関、提供窓口となる地域拠点、ボランティアグループ、事業協力企業など26の団体・機関との情報交換会や、勉強会等を実施し、「助けて」を受け止める体制づくりを行っています。

また、各主体での周知啓発活動を行うとともに、草津学区社協活動拠点「ゆかい家」でのレディースカフェや、ゆかい家と志津南学区社協活動拠点「ふれあいハウス絆」での小物づくりのワークショップを通し、当事業の周知を図りながら、つながりづくりを進めています。

【対応課題】

個別課題：(1)市民

横断的課題：①各主体の情報の共有の不足、②場所・機会の不足、③担い手の不足
⑤組織・活動を取り巻く状況の変化

【No.】

市民×市民
×中間支援組織×市

「ピカッと草津」(地域助け愛応援駐車場)

市民×学区社協×在宅サービス事業所×企業・商店×草津市社協×草津市

【ここがポイント】

いつか自らが直面するかもしれない課題を各市民に我が事と感じていただくことで、市民の意識を変え、課題解決へと導くことができた。

【概要】

「ピカッと草津」は、在宅サービス事業所がサービスを提供する際に駐車場がないことで駐車違反になったり、事業所や利用者家族に苦情が入るなどの「在宅サービス訪問時の駐車場問題」を切り口に、公的サービスに光をあて、地域の理解を広げる取組です。

令和6年10月現在、矢倉学区・老上学区・山田学区・笠縫東学区で本取組を進められています。

【ストーリー】

草津市社会福祉協議会では、地域の実情に応じた高齢者等の生活を支える地域づくりを進めていくため、生活支援体制整備事業第2層協議体として、小学校区域に生活支援コーディネーターを配置し、地域での話し合いの場「医療福祉を考える会議」を展開されています。この会議では、地域の様々な活動者、医師、介護事業所、地域包括支援センター、行政、市社協等が集まり、必要とされる活動を語り合うことで、支えあいの地域づくりが進められています。

高齢化の進展が今後も見込まれる中、地域の支え合い活動と在宅サービスの両輪が必要不可欠であることから、在宅サービスに視点を変えて事業所困りごとアンケートを実施されました。そこで、駐車場がないことで駐車違反になったり、「恥ずかしいから事業所の車を家の前に停めないでほしい」「近所から家族に苦情が入った」といったサービスに対する地域の理解不足が浮き彫りになりました。

この課題から、公的サービスに対する地域の理解を広め、困っている時に「困った」と言える地域、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりをしていくために、各学区で「知ってもらうこと」から始め、地域住民、事業所、関係機関が連携し共に考えることでお互いの関係性を深める福祉でまちづくりを展開されています。

この取組により、町内会長等の地域住民が事業所の車を止められるように働きかけを行ったり、自治会館・空き地を使用できるよう回覧で地域理解を呼びかける等、住民の意識に変化が見られています。

【対応課題】

個別課題：(1)市民

横断的課題：①各主体の情報の共有の不足、②場所・機会の不足、
④組織・活動の負担感、⑤組織・活動を取り巻く状況の変化

【No.】

市民×市民
×中間支援組織×市

健幸なまち南笠東プロジェクト

市民×病院×包括×企業・商店×学区社協×草津市社協×草津市

【ここがポイント】

健幸という切り口から、学区社協と医療や福祉関係者、地域の企業・商店等にも協力いただくことで、住民同士のつながりだけでなく、地域に関わる企業・商店も含めた地域の顔の見える関係づくりにつながっている。

【概要】

住民が、自らの健康と住民同士のつながりを維持しながら、地域で安心して暮らし続けるために、地域の企業・商店、医療や福祉の専門職等が協働し、様々な講座を提供している。

【ストーリー】

「いつまでも健康でありたい」という学区住民から寄せられた願いから、南笠東学区社協では、「支え合い 笑顔あふれるまち」をスローガンに、地域住民が安心して元気に暮らし続けることができる地域づくりに取り組まれています。多くの住民が参加でき、つながり合える場が必要だということから、健康に関する講座・イベントを年間6回程度開催されています。

健康に関する講座・イベントは、学区社協や地域まちづくりセンター、草津市、草津市社協で企画内容を検討し、病気や食事などをテーマに「学ぶ」講座や、まち散歩を行う「運動」の講座、みんなで楽しいひと時を共有する落語鑑賞等の「楽しみ」の講座、また、ときにみんなで楽しくニュースポーツを行ったりと、地域の企業・商店、医療や福祉関係者に講師として協力をいただきながら実施されています。

毎講座、趣向を凝らしながら企画をしていることもあり、年間を通じて大変好評です。

【対応課題】

個別課題：(1)市民

横断的課題：②場所・機会の不足

企業組合労協センター事業団 草津地域福祉事務所 みんなの家

【ここがポイント】

現在、草津市で唯一のワーカーズコープであり、その働き方により、多くの地域課題の解決に向けた事業が展開されている。

【概要】

みんなの家とは、全国で事業を展開する労働者協同組合連合会（ワーカーズコープ）センター事業団の草津事業所です。センター事業団では、働く人が市民と共に地域に必要な仕事をおこす「仕事おこし・まちづくり」を目的とし、全国的に、介護・子育て・障がい者支援・若者就労支援・清掃・食・公共といった様々な事業が取り組まれており、みんなの家では福祉事業に取り組まれています。

【ストーリー】

みんなの家は、平成15年度に開所以来、福祉事業を展開し、事業規模を拡大されてきました。

そもそもワーカーズコープとは、働く人々や市民がみんなで出資し、経営にみんなで参加することで民主的に事業を運営し、責任を分かち合って、人と地域に役立つ仕事を自分たちでつくる協同組合のことです。組合員になることで、平等に経営に参画することができるため、地域の課題を解決するための事業を立ち上げることもできます。

みんなの家でも、介護保険事業（高齢者の通所介護・訪問介護・障害者支援）や子育て事業（児童育成クラブ指定管理やつどいの広場委託を受けての運営）、障害児事業（放課後等デイサービス）、生活困窮者就労支援事業等、地域課題の解決に向けた沢山の事業が展開されています。

令和4年度には労働者協同組合法が施行され、全国的にワーカーズコープという働き方がより身近なものとなりました。

今後の更なる少子高齢化や、地域課題の複雑化に対応するための手法の一つとして、市内でも広がっていくことが期待されます。



【対応課題】

個別課題：①市民

横断的課題：②場所・機会の不足、③担い手の不足、④組織・活動の負担感、
⑤組織・活動を取り巻く状況の変化

労働者協同組合はんしんワーカーズコープ**【ここがポイント】**

組合員が平等に経営に携わる労働者協同組合だからこそ、一人ひとりが納得感を持って働けるよう対話の探求が徹底されており、様々な事業を通し、楽しみながらまちづくりを実施されています。

【概要】

はんしんワーカーズコープとは、兵庫県尼崎市の阪神尼崎駅近くの商店街を拠点とする団体であり、平成26年度に企業組合として設立され、令和5年度に労働者協同組合に組織変更されました。設立時は造園事業と訪問介護事業からスタートされ、令和6年10月現在は介護事業、障害者支援事業、就労準備支援事業、高齢者生きがい就労事業、生活総合支援事業の5つの事業を展開されており、商店街の活性化も手がけられています。

【ストーリー】

平成26年度の設立以降、1～2年間は、仕事をするだけで精一杯で、地域活動に目を向けられていなかったとのことですが、組合員や利用者とともに無農薬のお米づくりや地域食堂を開始し、商店街に事務所を構えたことをきっかけに、地域活動や商店街の活性化に参画されるようになりました。

労働者協同組合を円滑に運営するためには、組合員の対話や意見反映が大変重要となります。そこでははんしんワーカーズコープが実施したのが、クレドづくりでした。クレドとは、組織全体の組合員が心がける信条や行動指針のことです。クレドづくりには1年6ヶ月という時間がかかりましたが、意見交流を繰り返す中で、徐々に価値観を共有でき、バラバラだった一人一人の意見が組織全体の意見に変わっていききました。

「地域で最も必要とされる“仕事とチーム”を目指して」というビジョンのもと、地域課題解決に向け今後も様々な事業を展開されることでしょう。

**【対応課題】**

個別課題：(1)市民、(3)基礎的コミュニティ

横断的課題：②場所・機会の不足、③担い手の不足、④組織・活動の負担感、
⑤組織・活動を取り巻く状況の変化

【No.】

市民×中間支援組織×市

「協同労働」促進事業

広島市×労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

【ここがポイント】

市が市民の「協同労働」の支援を行うことで、市内で協同労働が広がり、新たな地域課題解決の手法として確立しました。

【概要】

広島市は、全国に先駆けて「協同労働」の立ち上げ支援を実施されている自治体です。「協同労働」個別プロジェクト立ち上げ支援事業補助金の設置および「協同労働」について知見を有するコーディネーターによるプラットフォームの運営を通し、「協同労働」という仕組みを活用して事業を行おうとする地域中核人材の発掘や育成から起業の支援、起業後のフォローアップまでの伴走型支援を行っており、平成26年度から令和5年度までで36の団体が協同労働を実践しています。

【ストーリー】

協同労働とは、団体のメンバーが自らできる範囲で出資し、メンバーが対等な立場でアイデアを出し合っ、人と地域に役立つ仕事に取り組む仕組みのことです。

全国的に少子・高齢化が進展する中で、広島市は、意欲ある高齢者による地域課題の解決に資する起業を促し、地域における高齢者の働く場の創出と課題の解決、地域コミュニティの再生を図ることを目的として、平成26年度から「協同労働」モデル事業を実施されてきました。

支援を受けた団体では、町内会支援事業や、高齢者の居場所づくり事業、家事支援事業、環境保全事業など、多様な事業が展開されています。

地域課題の解決にあたり、有志やボランティアだけでは限界がある場合がありますが、仕事にすることで、対価や責任が生まれ、持続可能な取組となります。



【対応課題】

個別課題：(1)市民、(3)基礎的コミュニティ、(4)市民公益活動団体、(7)市

横断的課題：②場所・機会の不足、③担い手の不足、④組織・活動の負担感、

⑤組織・活動を取り巻く状況の変化